

# すっかんぽ

☆ 研究室だより No.3

1992年6月号

## 名古屋の 八田耕吉先生の巻

4月号で紹介したアミメカゲロウの研究を始めてから約3ヶ月になるが、一番ドキドキする瞬間は、日本各地にいるアミメカゲロウの研究者に会いに行く時である。

現在、このカゲロウが大発生する川は、福島県の阿武隈川と愛知県の庄内川、岡山県の旭川、大分県の大分川あたりが知られている。研究のためとはいえ、道具を一式持て、十人で採集に行くとなると、2~3日がかりの大仕事である。

アミメカゲロウの研究者のリストを調べてみると八田耕吉先生という方が名古屋女子大学にいらしゃることがわかった。何といっても女子大の先生である。“これはもう名古屋に会いに行くしかない。女子大がオレを呼んでるぜ” こうして、まず最初に名古屋に採集に行くことが決まった。

大学に電話をすると、6月25日なら、会っていただけるという話がすぐにまとまっていた。

6月25日の10時ころ、八田先生は、車で旅館まで直接むかえに来てくださった。ポロシャツと半ズボンが妙にマッチしている。ていねいな物こしの先生で、車の中では、世間話してリラックスさせてくれたが、その時ふと、私の頭の中に一つの考えがうかんだ。名古屋といえば中日ドラゴンズ、八田先生は中日ファンではないかと。私は、遠回しに、“やはり、名古屋は中日ファンが多いんですか。”と質問した。“そうですね、まず90%以上は、そうでしょう。名古屋球場で巨人の帽子かぶってた、袋だたきにいきますよ。”八田先生の目が、メガネの奥でキラリと輝くのを、見のがさなかつた私は、それ以上、7000野球関係の話をするのは、やめた。また、名古屋は、近くに豊田市があり、リハはトヨタ自動車のおひざもとで、5台に1台はトヨタの車だそう。トヨタ関連の会社に他のメーカーの車で、行っても入れてもらえないが、わざと遠くの駐車場にまわされるという話だそう。ちなみに八田先生の車は、ホンダだ、たような気がする。

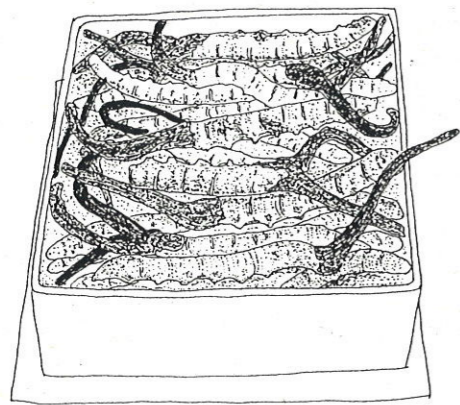
採集の後、女子大に案内して下さることになったが、残念なことに今日は授業がもう終わってしまったらしく、人影はまばらだった。しかし、まばらとはいえ、佐高とは全く異なる世界だった。

八田先生の研究分野は昆虫が専門であるが、研究室の中には、異様なものが、多量にござらされていた(うらにっく)

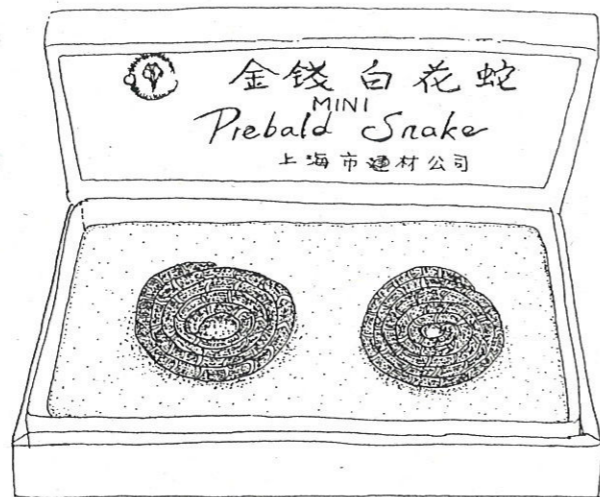


先生が手に持っているのが、中国の漢方薬店で手に入れたトカゲの干物。そして、下のスケッチの右側が小さな蛇を乾燥させたもの、左側が、カイコ（手巾から絹糸がとれる）にはえた、冬虫夏草（とうちゅうかう）…菌糸の団まりでキノコに近い仲間）である。

これらは先生のコレクションの一部であるが、別に先生の隠れた趣味というわけではない。実は、専門が昆虫ということもあり、同じ大学の他の先生と共同で中国の少数民族の昆虫食の調査をやっているのだそうだ。昆虫食といっても



カイコにはえた冬虫夏草



小さなへびの干物

まさか、昆虫を主食にしているわけではなく、日本でいえば、イナゴのつくだ煮のようなものを、さしている。東南アジアでは、大きな夕ガメという水生昆虫を、おいしそうに食べているのをテレビで見たことがあったが、中国では、どんなものを食べているのだろうか。このスケッチ以外にも、バグワヤ、ヘビトンボの幼虫など、秘蔵の品をいろいろ見せてくださった。

しかし、この共同研究の問題点は、市販されている標本以外には、国外に持ち出すことが認められていないことだそうだ。

調査期間は、7月14日から2週間。どうも今ごろは、中国に着いたばかりの頃だと思う。

今回の名古屋での採集は、八田先生に会えただけでも大きな収穫だった。今度、8月から9月に会う時には、もっと変わった標本もたくさんみせていただけたらと思うと、楽しみである。もし、珍しいものがあったら、紹介して頂くつもりである。